

「全鍍連」 2024年 7月号 若者から一言

茨城県鍍金工業組合

青年部 会長 中島 甲一 (川井金属化工(株) 代表取締役)

「青年部活動報告 (飲み会) と九死に一生」



茨城県鍍金工業組合青年部 3代目会長を務めさせていただいております中島です。昨年、約15年長きにわたり会長を務めていただいた2代目会長飯泉氏からバトンを引き継ぎました。(飯泉さん長い間ありがとうございました。) 全国鍍金工業組合連合会の皆さまには、日頃より大変お世話になり誠にありがとうございます。

○茨城県鍍金工業組合青年部の活動について

2007年(平成19年)茨城県鍍金工業組合青年部は発足しました。現在会員数は19社です。活動としては会員数が多いわけではないので親会も参加して懇親会という名の飲み会やゴルフコンペが中心です。今年3月の大宮での「未来を担う若手の集い」に参加した時の各組合青年部活動報告を聞いてあまりにも茨城は遊び過ぎで不真面目と感じもう少しめっきに関わることを学んだ方がいいのではと考えさせられました。そこで今年度はめっき業界の動向や経営に関する講義といった勉強会を企画、実行し勉強会の後は恒例の親会を交えた懇親会(飲み会)をして茨城らしい楽しい活動を行っていきたいと思っております。

○地域について (九死に一生)

私の住んでおります「日立市」は茨城県北部太平洋に面した海がきれいな街です。また総合電機メーカー日立製作所の創業の地であり日立グループの企業城下町です。私の会社は日立市でも山地にあるところで(株)JX 金属(旧日立鉬山の)社宅跡地にあります。そんな私の住んでいる「日立市」に昨年9月8日(金)に今まで経験したことのない自然災害が発生し、私も九死に一生の体験しました。その日は台風13号が千葉県から茨城県へ北上し大雨が降り続いていました。従業員たちの安全を考え先に全員退社させ、私も少し時間を置いてから退社しましたがその時間帯(17時頃)が一番雨がひどい時で3時間雨量約200mmを観測し線状降水帯が発生している時でした。山地の道路を市街地の方へ下っていく途中、私の走っている車の道路脇ののり面が崩れていく状況を見ながら慌てて走りました。しかし、前を走行していた車が減速し、停車してしまい、その先を見ると道路を塞ぐ土砂、倒木、電柱が倒れていました。来た道を引き返そうとしたがその道も土砂崩れで通行不可能。完全に閉じ込められてしまいました。幸いにも私一人ではなく10人(乗用車6台 バス1台)が閉じ込められ(当組合鹿志村理事長(有)カシムラ工業所の従業員1名も閉じ込められました)10人一丸となって警察、消防、救急、行政機関等に電話を掛けまくっていました。閉じ込められた10人は初対面でしたが助かりたい一心で協力し、変な団結があったような感じがしました。閉じ込められて約7時間後に消防の方たちが救助に来ていただきみんなで助かった喜びを覚えています。私たちが閉じ込められていた時の日立市は日立市役所庁舎が浸水、約100軒が床上床下浸水、数か所で土砂崩れと最悪の被害が起きていました。現在も土砂崩れの影響で私の会社に繋がる道路は片側交互通行、雨量規制が設けられ全面復旧には数年は掛かりそうです。無事に助かりましたこの体、粉骨砕身してこれからも組合活動に協力していきたいと思えます。